

町・所
診療所
内里
知湯の

小学校の空き教室に移設

亀田北病院が診療対応

渡島管内知内町の町立湯の里診療所(無床)は、生徒数減のため閉校する町立湯の里小学校の空き教室に移転。亀田北病院が医師を派遣し、週2日内科診療を担っている。

同診療所は1961年

に国立函館病院付属診療所として開院し、93年に町立へ移管された。2012年から湯の里町内会館2階で診療していた



教室1室分を用いた広い診察室。学校の雰囲気も残している

が、老朽化に伴い地域住民からは、より利便性の高い場所へ移転を求めめる声が寄せられていた。

同小学校は全校児童が7人となり23年3月で閉校するため、診療所として活用することにした。

新診療所は、1階の教室3部屋分210㎡を町が約60万円をかけて改修し、診察室と待合室、受付用の事務室にそれぞれ1つの教室をあてて整備。入口は学校入口と分けて校舎裏手に設けた。

すでに函館市の亀田病院が町内の知内診療所を管理している実績から、分院の亀田北病院で副院長を務める原田直樹氏が管理者に就任。診察日を金曜日午後と土曜日午前とし、レントゲンやCT検査などは知内診療所で

実施している。

患者は高齢者が多く、「階段を使わないので楽になった」「古くて寒い診療所と違い学校の中は暖かい」と移転を歓迎する声が目立つという。原田副院長は、今後も町と話し合い、町民のニーズに寄り添った診療を続けていく考えだ。